



小園子生徒親心得

柳田文庫
文庫11
A1553



文庫11
A/553

柳田泉文庫

48-8743

福田泉

叙

往昔足利學校全書 文庫等
リと其名後サリ 聲一今中足利子
校全書一又存の如く 遠國比也
少村法と紙の音柳 會小豆禰
學又書の如く 明後今
以て魁しき一故に 徳壽堂の如

此の書は明治六年二月に刊行された
 ものである。その内容は、
 文壇の概略を述べ、
 著者の自叙傳を附し、
 明治六年二月に刊行された
 のである。

明治六年二月に刊行された
 のである。

政 記 誌

目録

○ 智恵の輪 伍一

○ 幼童見聞 繪圖 甲 拾一

○ 方圓平面の圖

○ 方圓側面の圖

○ 平面側面新圖

○ 綿繪の譯

○ 羽字の譯

○ 平仮名

○ 行仮名

○ 眞字

三

四

同

五

同

六

同

同

同

九

十

十一

十二

十四

十八

廿三

三十

廿三

廿四

- 結字の一字の解
- 筆字捷徑の解
- 體字の譯
- 外の運筆
- 小學生徒心得
- 小字教師心得
- 七位又母の心得
- 單語圖字列
- 連語讀方
- 秤度秤の文字讀方

通計 二十條

○ 輪 (ちま)

三角の物にかりしを輪と名づ

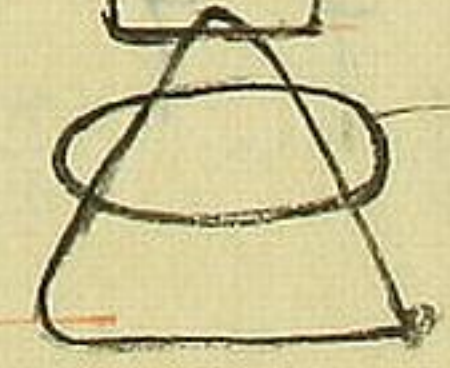
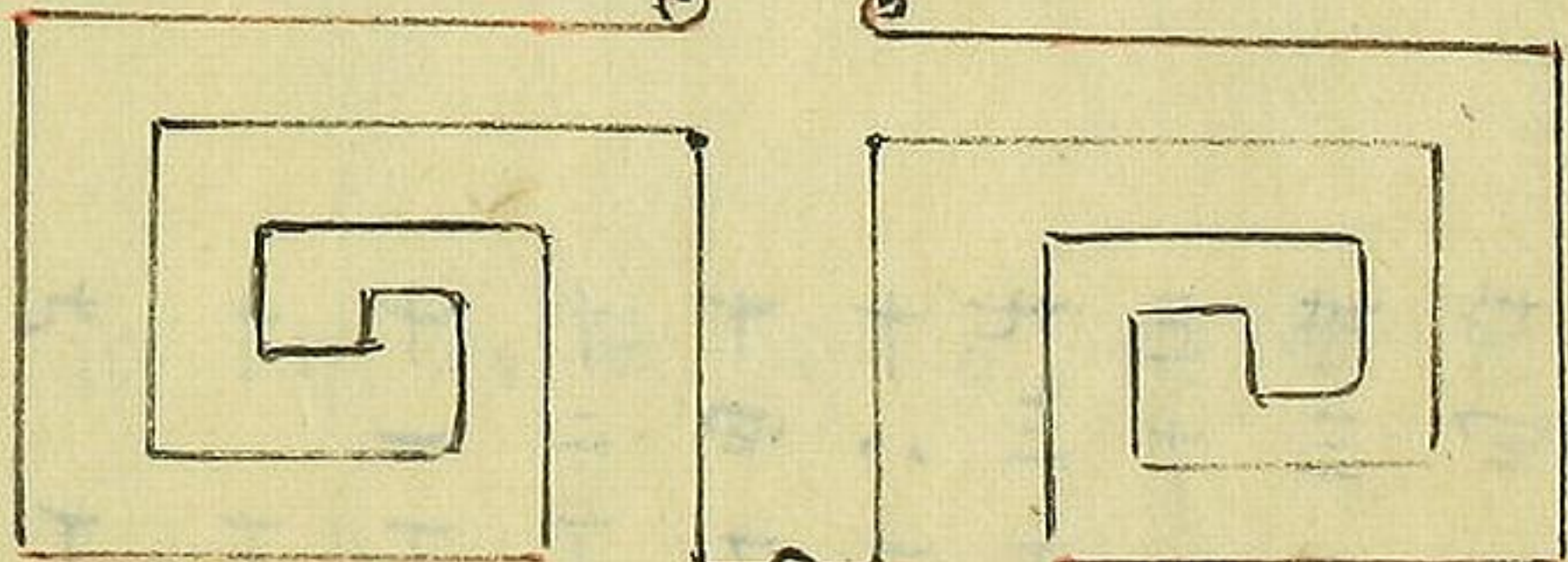
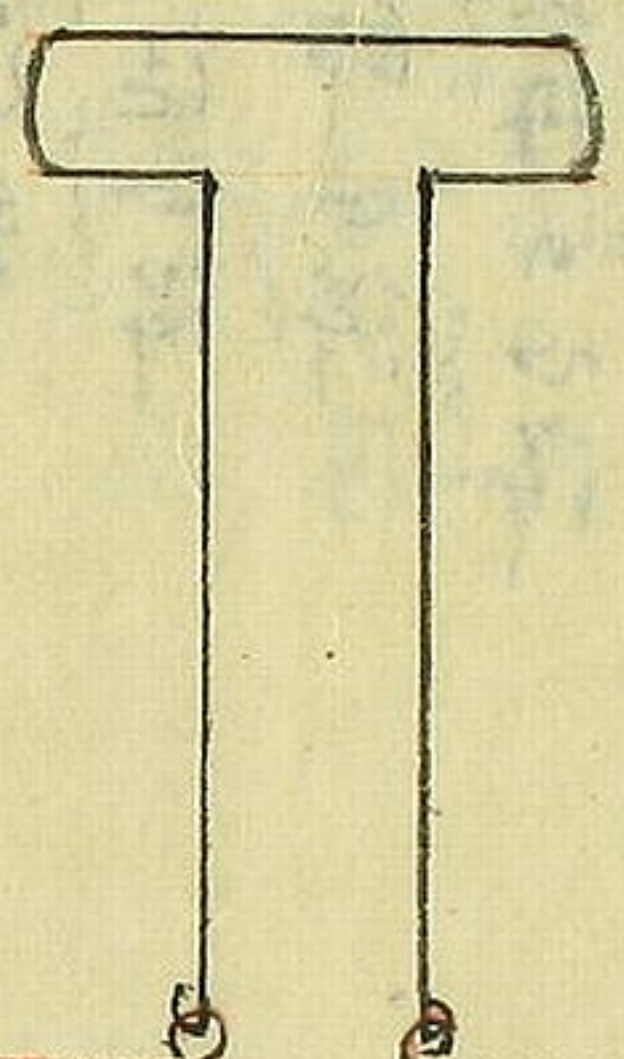
右へ左へ廻りては三角



三角の図のま

一にまを輪と名づるは

行と名づるは



輪の

昔 輪の如くは金と下は

後と名づるは右へ左へ廻りては

又後と名づるは右へ左へ廻りては

輪の如くは金と下は

後と名づるは右へ左へ廻りては

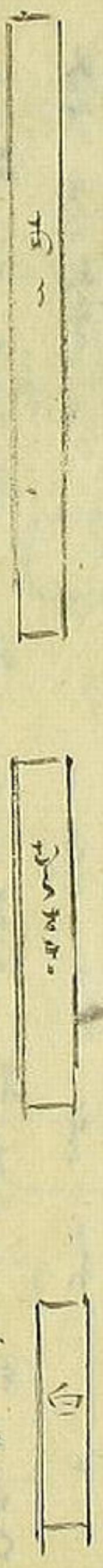
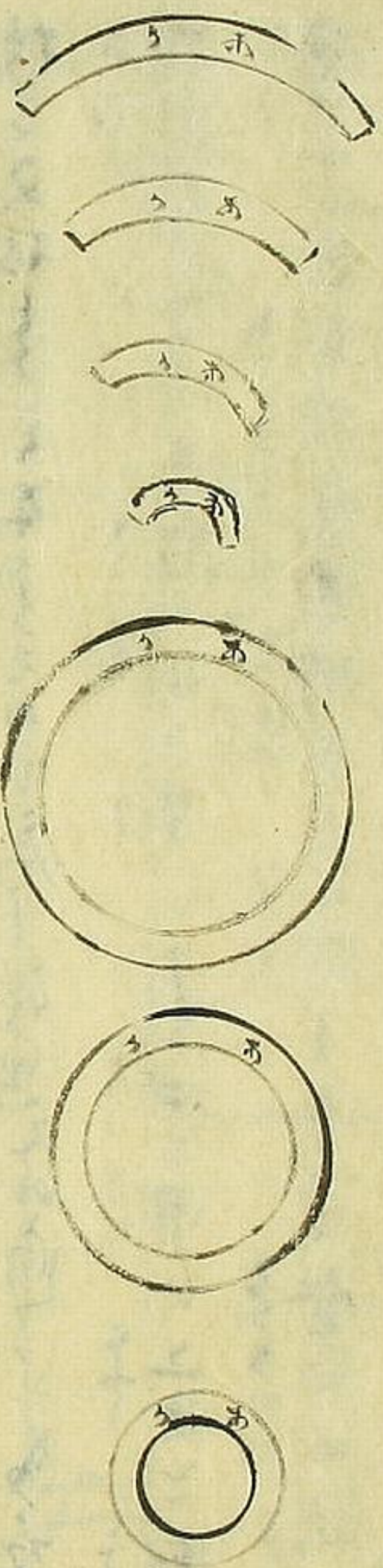
又後と名づるは右へ左へ廻りては

輪の如くは金と下は

輪の如くは

○幼童に見取繪圖早指圖

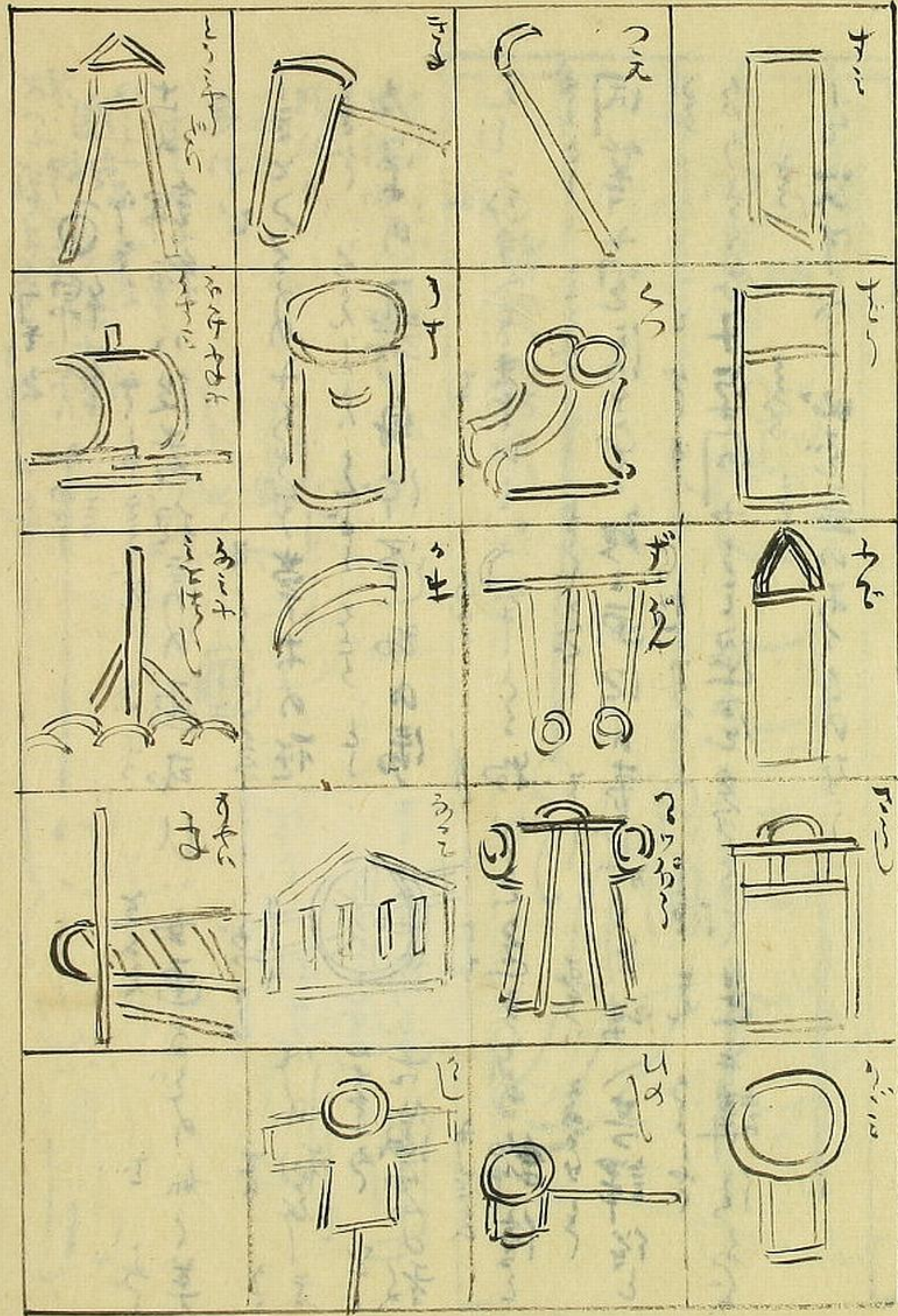
繪圖と云ふは器械



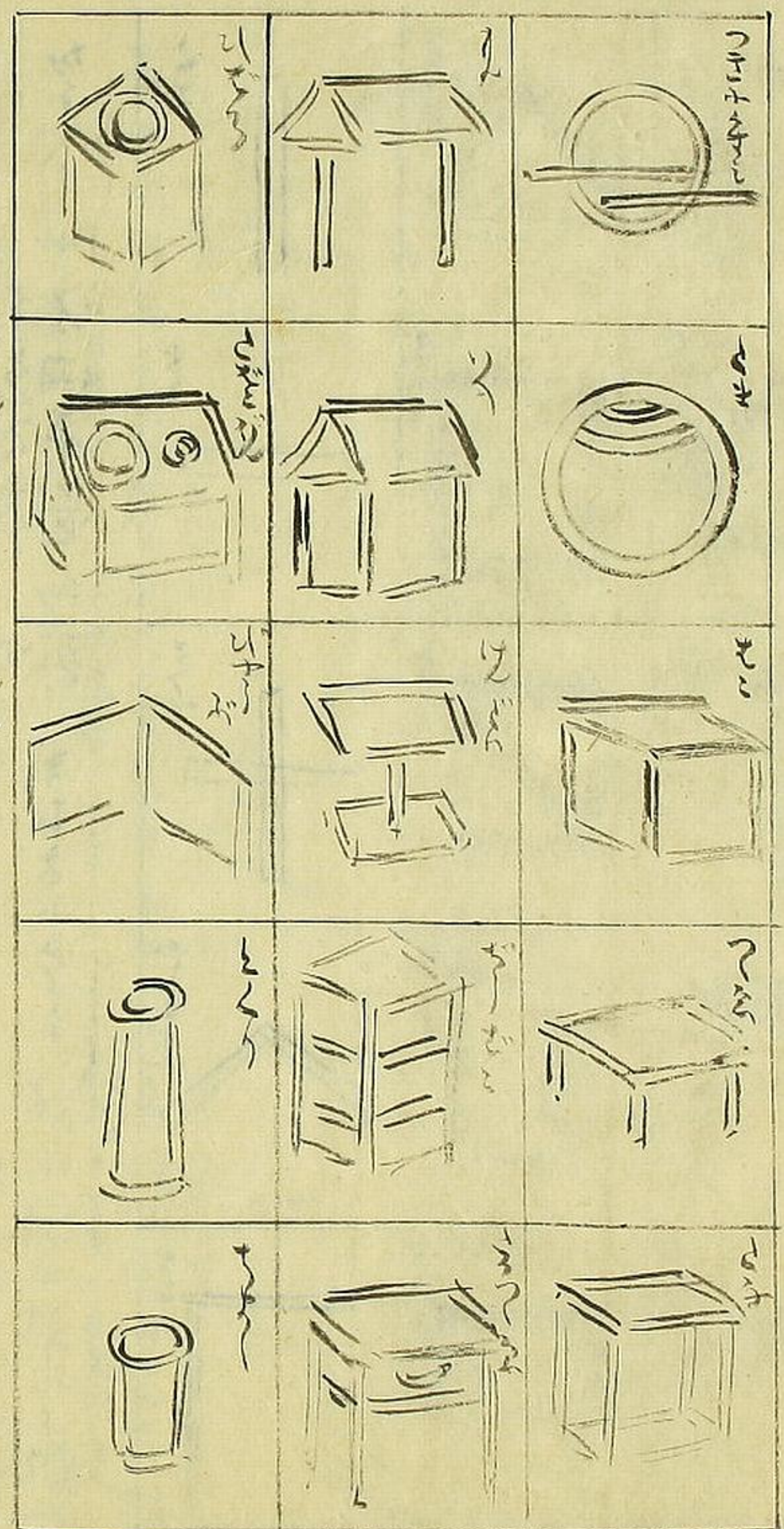
右の形はのりのはり厚紙を裁き置る由ありて其の形に
 紙を貼るに山はくも其の形に貼るにありて其の形に貼るに
 厚紙を自ら貼るにありて其の形に貼るにありて其の形に貼るに

 ま	 ま	 ま
 ま	 ま	 ま
 ま	 ま	 ま
 ま	 ま	 ま
 ま	 ま	 ま

○方田平画の圖
 一に横線を引く
 二に縦線を引く
 三に斜線を引く
 四に十字を引く
 五に山を引く
 六に谷を引く
 七に角を引く
 八に丁字を引く



○ 平面側面新圖



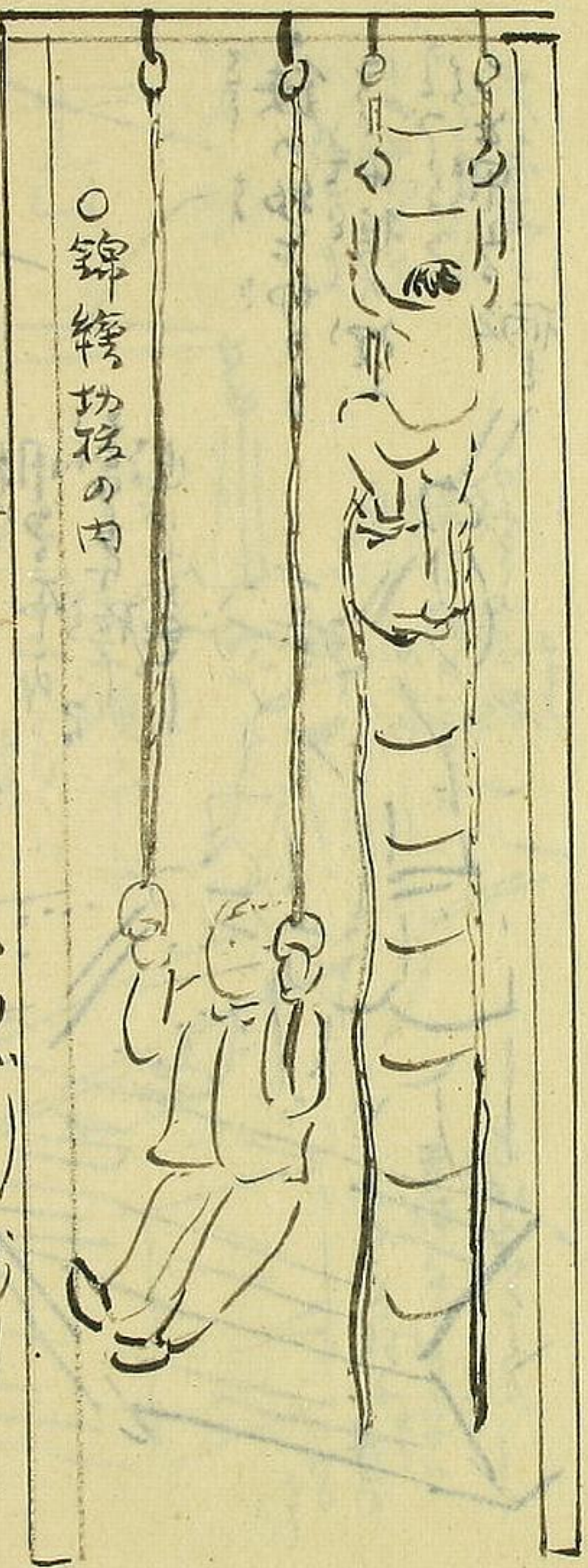
○ 四方側面の圖

四方側面の圖

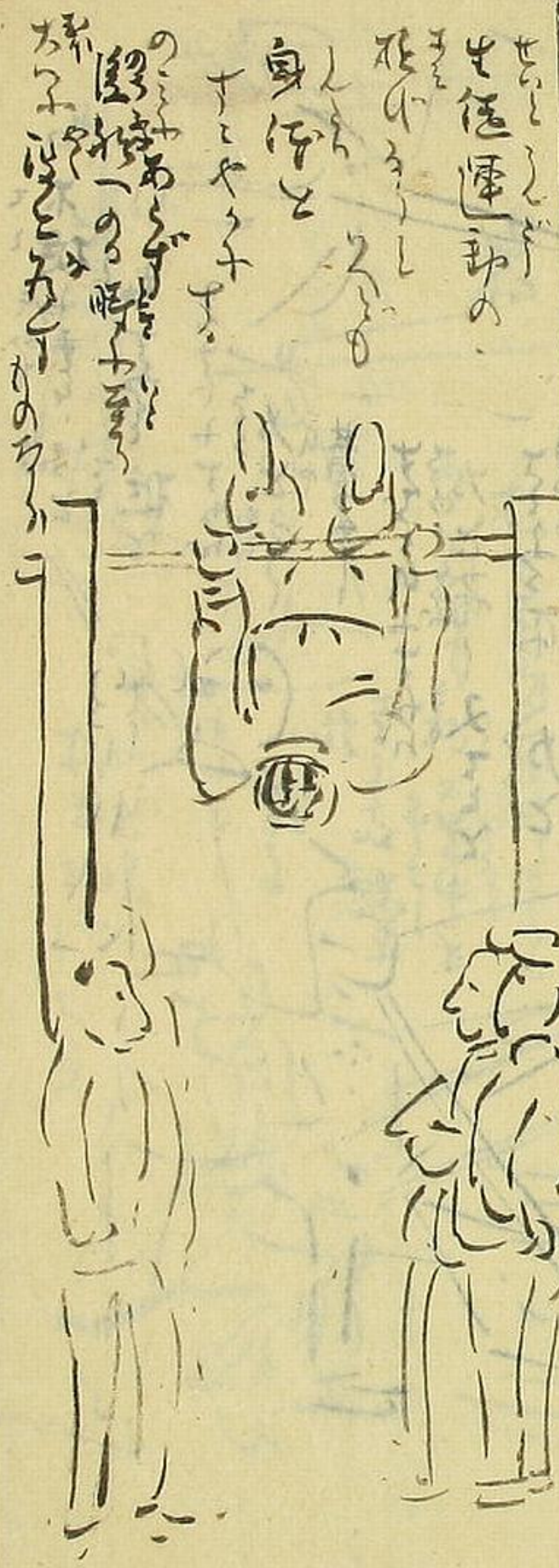
錦繪の譯

錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯

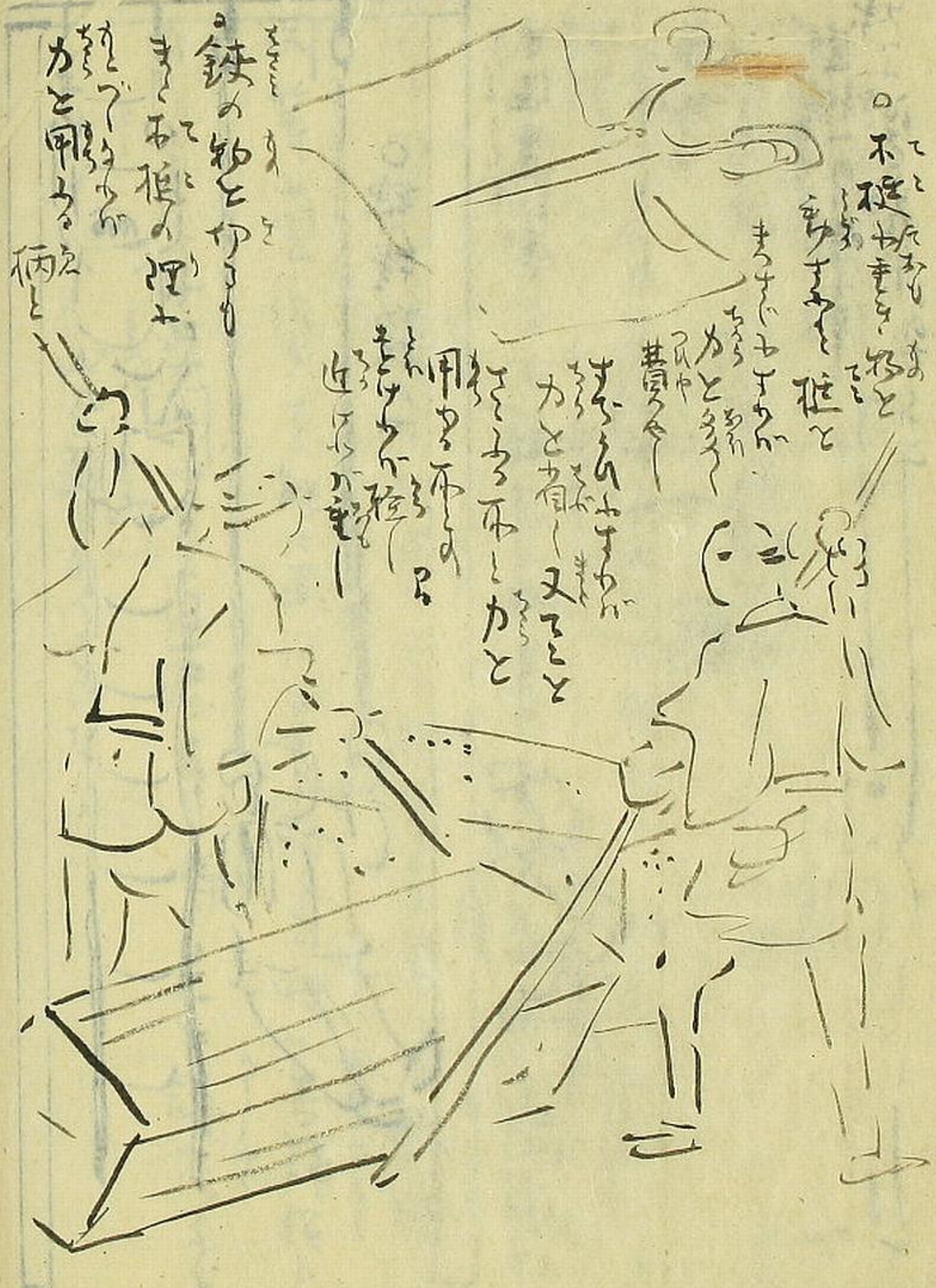
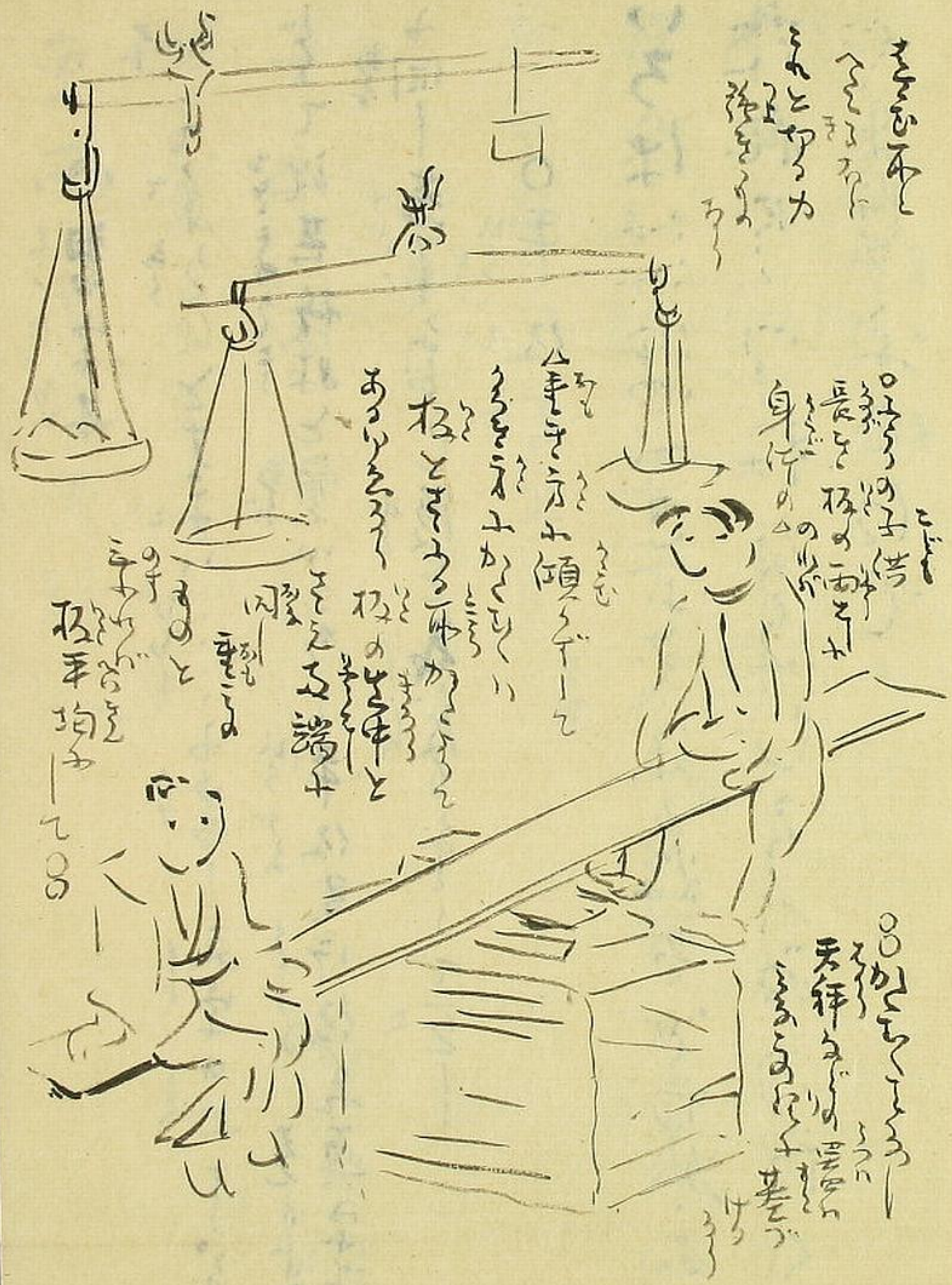
錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯



○ 錦繪 幼孩の内



錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯 錦繪の譯



○習字本

初はつてはつてはつてはつととまま子こいい...
してしてしてしととまま子こいい...
してしてしてしととまま子こいい...
してしてしてしととまま子こいい...

○平仮名

いろはにほへ一こまひりぬるぞわかよ
たねのつねならむじうぬのたぐ
あまけふとほて

○片仮名

イロハニホ一トナリ又ルヲツカ
ヨメシツツ子ナラム少井ノオク
ヤダ分ノヨハテ

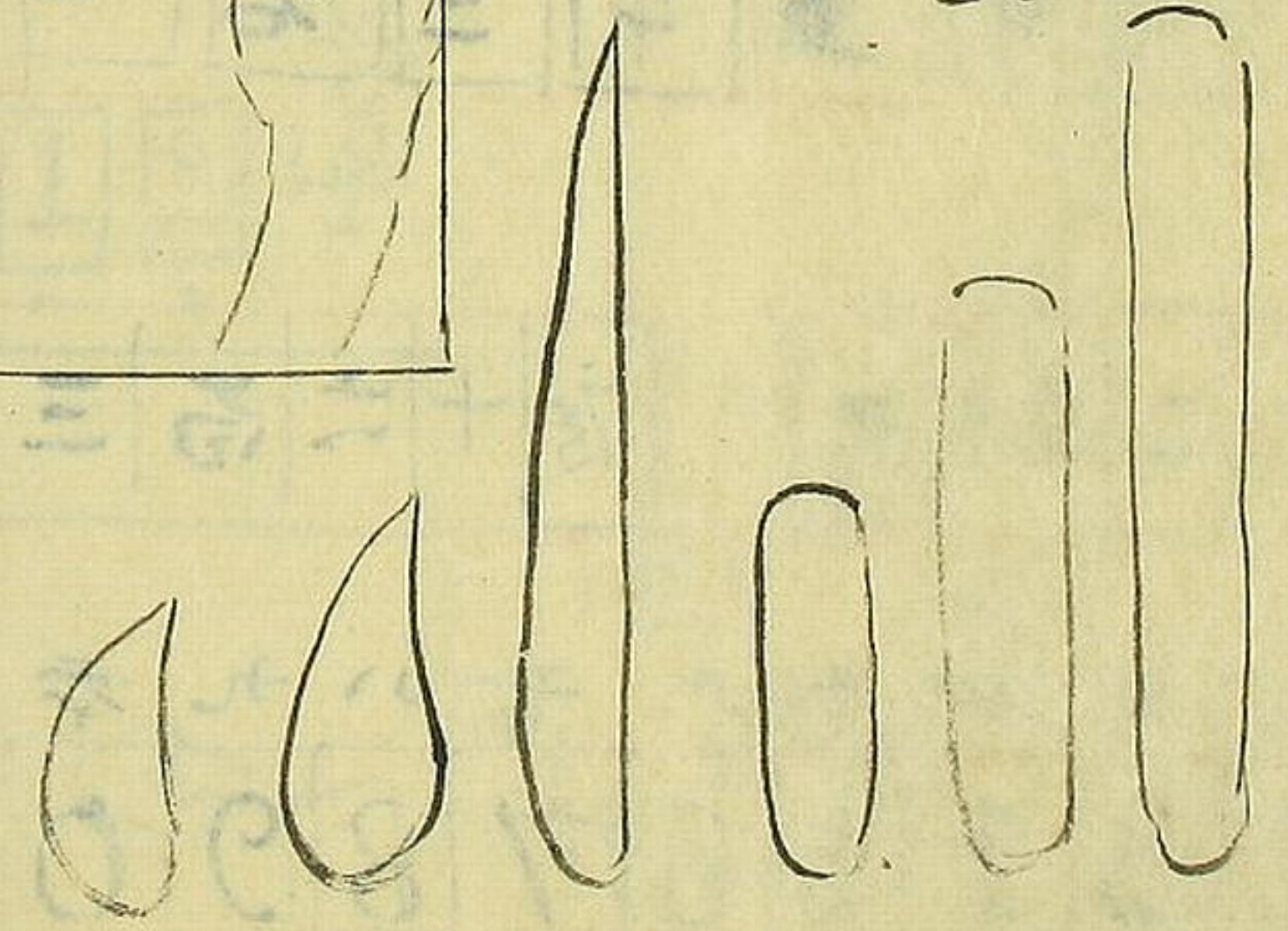
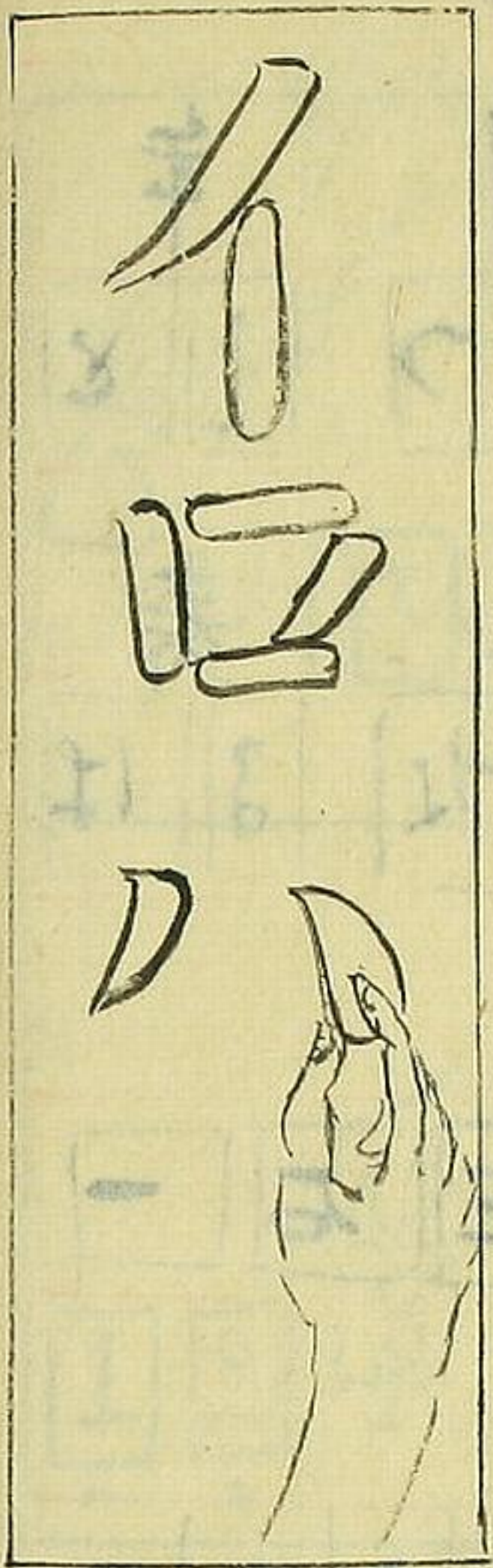
○真字

子牛寅卯辰巳未申酉
戌亥
東西南北天地人

○筆字捷徑

下は左の圖の如く筆の握り方
 筆の握り方
 筆の握り方
 筆の握り方
 筆の握り方
 筆の握り方
 筆の握り方

筆の握り方

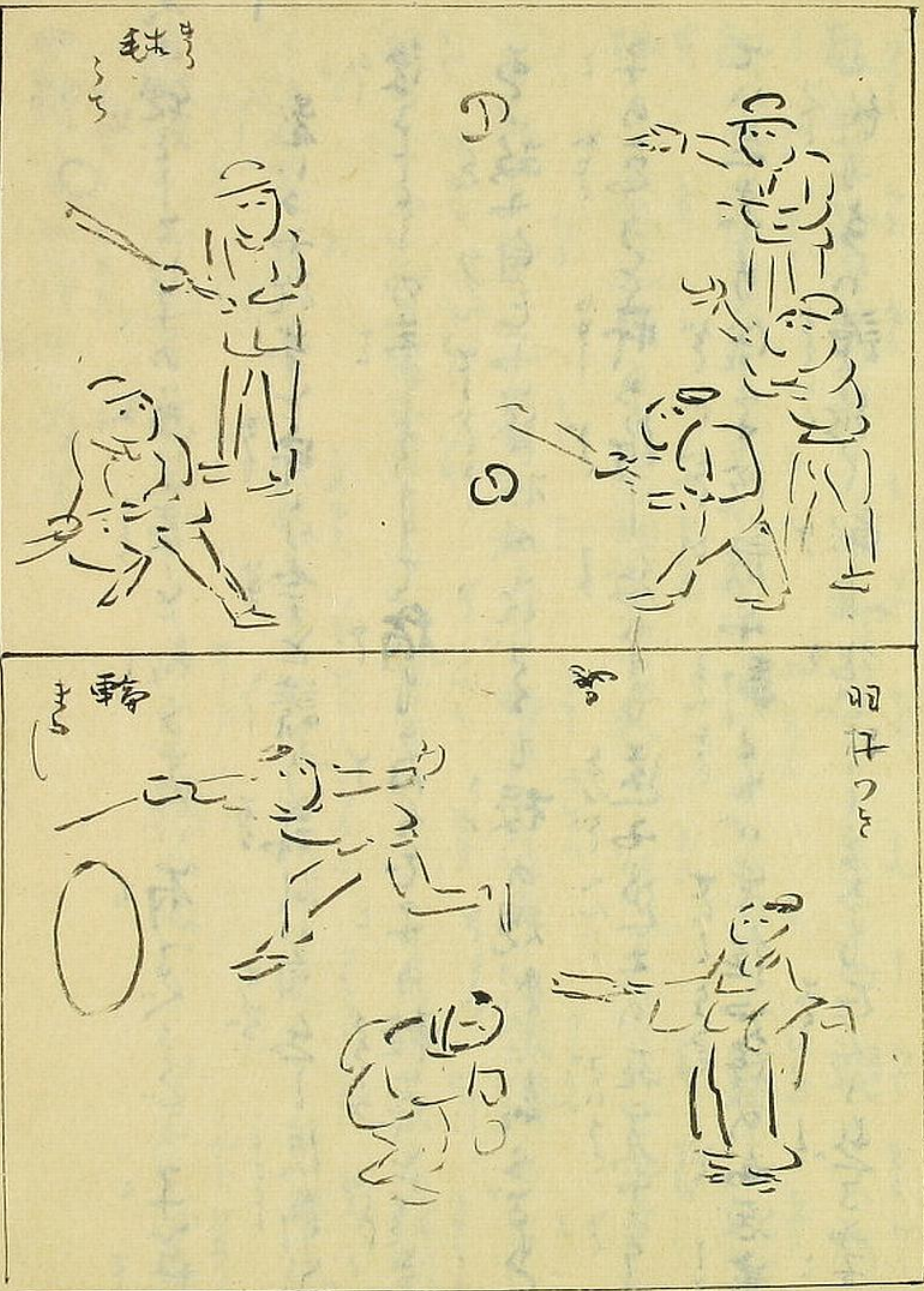
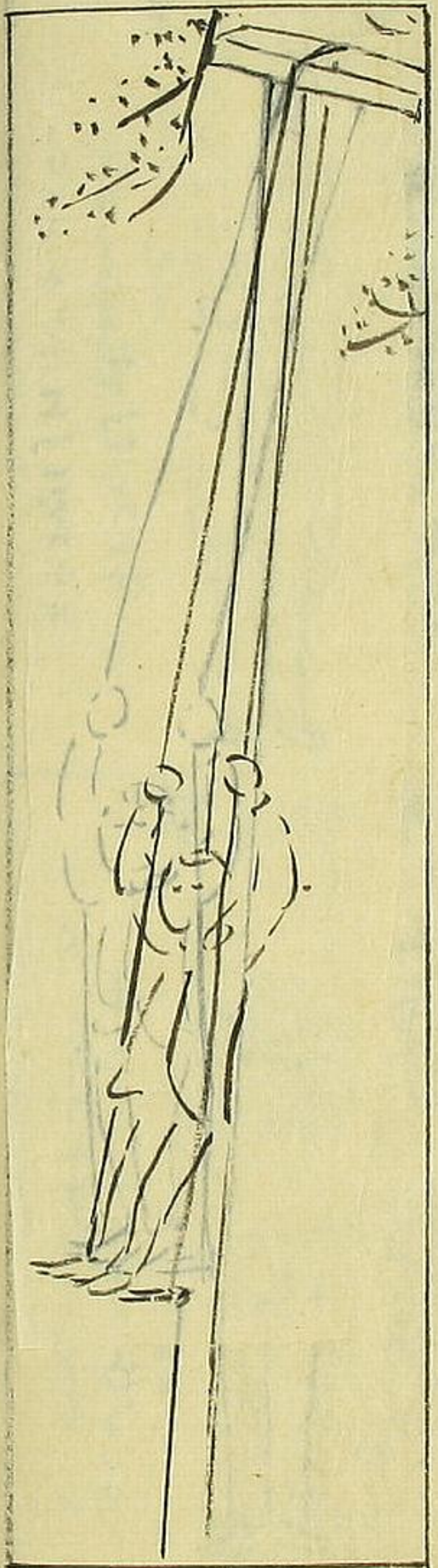


イ	ロ	ハ	ニ	ホ	一	ト	チ	リ	ヌ	ル	ヲ	ワ	カ
ヨ	タ	レ	ソ	ツ	子	ナ	ラ	ム	ウ	井	ノ	オ	シ
ヤ	マ	ケ	フ	コ	エ	テ	ア	サ	キ	ユ	メ	ミ	シ
エ	ヒ	モ	セ	ス									

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	イ	ユ	エ	ヨ
ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	井	ウ	エ	ヨ

○ 外そとの運動うごの圖ず

幼こどもは庭にわに土つちを以もつて性せうしきをなす。おのれの性せうを
 子このまじやうに自まづら道みち理りを。故ゆゑに本ほん回かいりて氣きを
 養やしなふ。庭にわに土つちを以もつて性せうしきをなす。おのれの性せうを
 子このまじやうに自まづら道みち理りを。故ゆゑに本ほん回かいりて氣きを
 養やしなふ。庭にわに土つちを以もつて性せうしきをなす。おのれの性せうを
 子このまじやうに自まづら道みち理りを。故ゆゑに本ほん回かいりて氣きを
 養やしなふ。



人の親とてその子の為と云ふは有るが如し其の子と云ふ

一教は其の法を以て守りて今と讀み申すは其の法を以て

後と云ふの法を以て守りて猶も其の子の性善と云ふ

ある故に自ら其の法を以て守りて其の規則と云ふは其の

子の性善と云ふ法を以て守りて其の規則と云ふは其の

その法を以て守りて其の規則と云ふは其の

その法を以て守りて其の規則と云ふは其の

教師の法を以て守りて其の規則と云ふは其の

師の法を以て守りて其の規則と云ふは其の

其の法を以て守りて其の規則と云ふは其の

其の法を以て守りて其の規則と云ふは其の

其の法を以て守りて其の規則と云ふは其の

其の法を以て守りて其の規則と云ふは其の

其の法を以て守りて其の規則と云ふは其の

其の法を以て守りて其の規則と云ふは其の

其の法を以て守りて其の規則と云ふは其の

其の法を以て守りて其の規則と云ふは其の

其の法を以て守りて其の規則と云ふは其の

其の法を以て守りて其の規則と云ふは其の

其の法を以て守りて其の規則と云ふは其の

第一條

一 毎朝早く起る顔しては、
 檢事又申す元とほつ朝の會事、
 用事と為し先筆紙書物と取り扱ふ事、
 取落しを致さず、
 但し一時と歸りて、
 扱とる事、

第二條

一 毎日学校へ来たる時、
 一

第三條

一 学校へ入り席を執んとす時、
 一

第四條

一 席に着ては、
 一

假しき外見新語と云ふこと

第五條

一 教師の許しを以て標し教壇に入らざるべし

第六條

一 業と交する時刻未だ終了する可くは録の席に著し教師の指圖と違ふべし

第七條

一 業と交する時刻に後を早退する時標し教壇

を傳へて早退する時標し教壇を離れし
指圖と違ふべし

第八條

一 出入りの時障子襖との開閉と静かすべし書
物を取扱ひ方の成丈丁寧を以て研らばせし
むべし書物と同くふんや紙と違ち又持て唾
しを落とさざるべし

第九條

一 毎朝顔を洗ふと清浄なりと云ふ事

一

第十條

一 生徒は常に教師と尊敬し一は指揮を受く

一 教師の定むるものは一切聽すべし

一 書生は常に静かに居るべし

一 生徒は常に十一條を心に留め、時と場合

一 受書中自分の意と違ふところは、時と場合

一 教師の評言を心に留め、時と場合

第十二條

一 人と非議ありし朋友とは、時と場合

一

一 文字同様の字も、時と場合

一 語を敬し、時と場合

一 豪慢不遜の語を、時と場合

第十三條

一 師友まゝ其地をりて人子逢ふれば礼儀と
そを挨拶すべし一 階あつては之と脱し

第十四條

一 便所へ行きたるときは心を用いて便所より衣
服とけしき振子す可し

第十五條

一 人の部屋から安否内とて後か入るべし

第十六條

一 学校内の句語他も相互いふ文りの親
切かつて挨拶を怠らざりし講義とて決し
不敬不遜の振舞ふべし

第十七條

一 途中を遊びに用ひたし可し若し馬車等
物と見る可し其度く是をさぐり若し馬車等
達しそあるを早く降りて遊ばせし馬車等の好し

自ら自身も怪我を被る事あり

第一六三回

東洋

師 竹範 學校

明治三年第二回

教師の法律書を記す事あり
の如くこれ等の親もまた規則を用いて子を教む事あり
蓋し此の事多しし思ふ事あり
以てまゝ記す

小學教師の法律

第一條

凡教師は其の學文算筆と教ふもの中非
父兄の教訓と別けて注意を起す事あり
いと教導するに教ふ事後の中學校迄教ふ事あり
平日不行儀の徒あるを教師は其の程度を

第二條

教師は生徒と談ひ遊ばす事あり
信を以て信せし親を

教師の一人を以て是れは其の世の人の海に
其の時を以て其の教師と信じて一に其の
其の世の人の海に其の教師と信じて一に其の

第二條

教師一人を以て是れは其の世の人の海に
但一是れは其の世の人の海に其の教師と信じて一に其の
其の世の人の海に其の教師と信じて一に其の

第七條

教師一人を以て是れは其の世の人の海に
其の世の人の海に其の教師と信じて一に其の
其の世の人の海に其の教師と信じて一に其の

但一是れは其の世の人の海に其の教師と信じて一に其の
其の世の人の海に其の教師と信じて一に其の

第八條

其の世の人の海に其の教師と信じて一に其の
其の世の人の海に其の教師と信じて一に其の

第九條

生徒として命を執つ時利を執るる者ハ
命を執つて命を執るる者ハ
命を執つて命を執るる者ハ
命を執つて命を執るる者ハ
命を執つて命を執るる者ハ

第十條

業を授けし時利を執る者ハ
業を授けし時利を執る者ハ
業を授けし時利を執る者ハ
業を授けし時利を執る者ハ
業を授けし時利を執る者ハ

第十一條

授業中の教壇に入る者の出入り
授業中の教壇に入る者の出入り
授業中の教壇に入る者の出入り
授業中の教壇に入る者の出入り
授業中の教壇に入る者の出入り

第十二條

生徒として命を執る者ハ
生徒として命を執る者ハ
生徒として命を執る者ハ
生徒として命を執る者ハ
生徒として命を執る者ハ

第一

盗竊の罪

第二

懶惰 乱暴 不潔 加

おたのしみ改訂版

第四

一級卒業の試験と落第三度の子

の

第一十三條

如きもの物と徳のありかを生徒の心と勵まし徳の
進歩を學びてくるべし

第十四條

学校内十條と教員不徳を生徒あらしむ
結構

ては教員一人

第一十五條

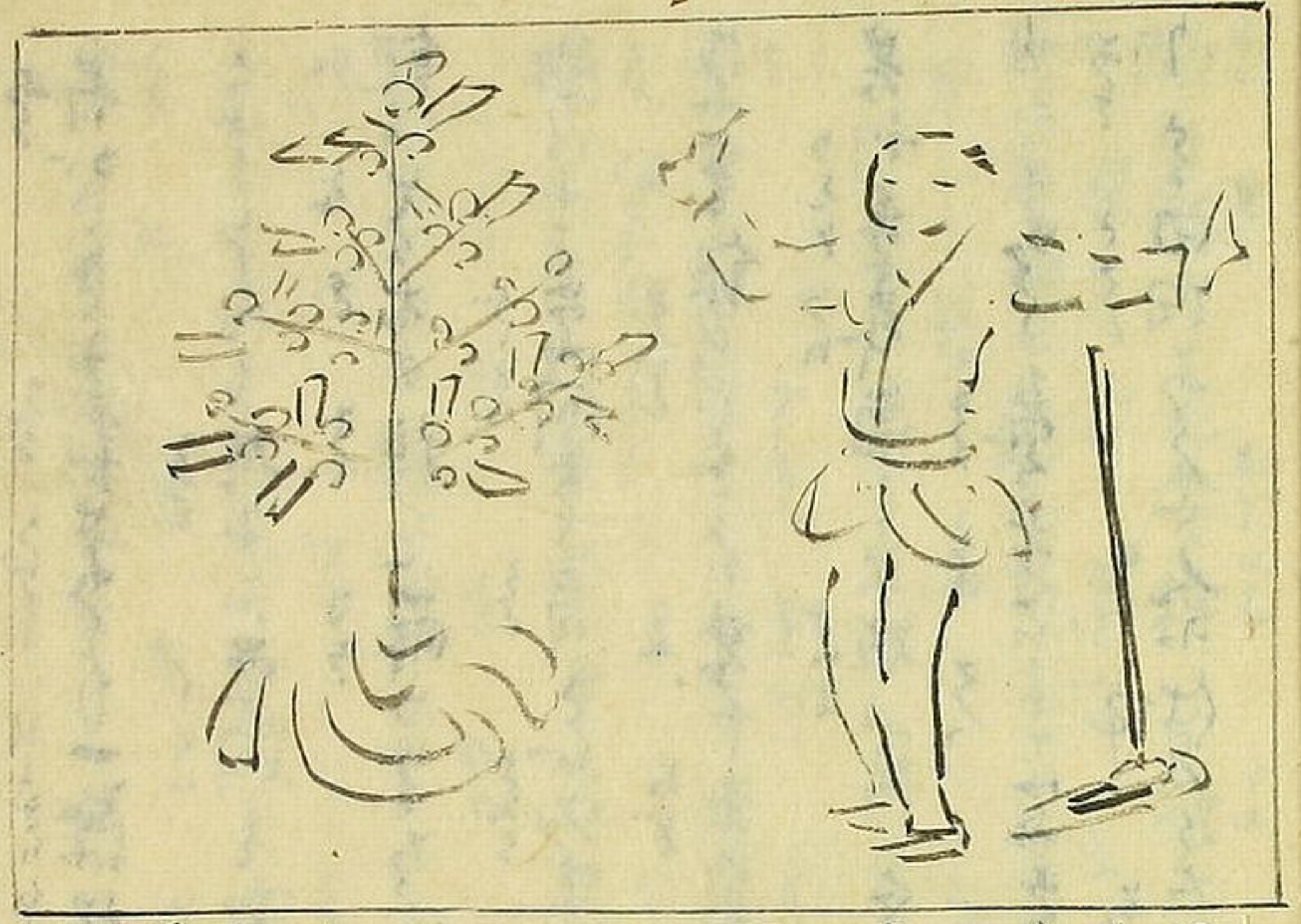
東京

師範学校

明治二年第五月

右の教師の規則書にて
子供は師のはねる所の
行はせしむるは
物と徳の進歩を
物と徳の進歩を

此の世に於ては、
 人々の心は、
 さまざまに
 迷ひ、
 苦しむ者多し。
 然るに、
 佛の教えは、
 常に人を
 救はんとす。
 此の世に於ては、
 人々の心は、
 さまざまに
 迷ひ、
 苦しむ者多し。
 然るに、
 佛の教えは、
 常に人を
 救はんとす。
 此の世に於ては、
 人々の心は、
 さまざまに
 迷ひ、
 苦しむ者多し。
 然るに、
 佛の教えは、
 常に人を
 救はんとす。



此の世に於ては、
 人々の心は、
 さまざまに
 迷ひ、
 苦しむ者多し。
 然るに、
 佛の教えは、
 常に人を
 救はんとす。
 此の世に於ては、
 人々の心は、
 さまざまに
 迷ひ、
 苦しむ者多し。
 然るに、
 佛の教えは、
 常に人を
 救はんとす。
 此の世に於ては、
 人々の心は、
 さまざまに
 迷ひ、
 苦しむ者多し。
 然るに、
 佛の教えは、
 常に人を
 救はんとす。

1 年 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日

10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日

1 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日

10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日

1 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日

10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日

10月 1日

1 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日

10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日

1 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日

10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日

1 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日

10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日

10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日

10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日

10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日 10月 1日

一 教授書の内容の整理
一 教授書の整理

一 教授書の整理
一 教授書の整理

一 教師の指導の整理
一 教師の指導の整理

一 教授書の整理
一 教授書の整理

一 教授書の整理
一 教授書の整理

引とる

單語回字引

○第一

蝦 <small>エビ</small>	紫陽花 <small>ムラサキ</small>	燭 <small>ロウ</small>	竿 <small>ササ</small>	貝 <small>カイ</small>	鹽 <small>シホ</small>	節 <small>フシ</small>	鳥 <small>トリ</small>	慈姑 <small>アマガモ</small>	襪 <small>ソックス</small>
夜 <small>ヨ</small>	袴 <small>ハカマ</small>	鐘 <small>カネ</small>	井 <small>イ</small>	豕 <small>ブタ</small>	龍 <small>リウ</small>	魚 <small>イサ</small>	櫛 <small>シ</small>	襪 <small>ソックス</small>	
絡 <small>カ</small>	馬 <small>ウマ</small>	具 <small>ク</small>	槐 <small>カイツ</small>	蠶 <small>サナバト</small>	笛 <small>フエ</small>	裨 <small>ヒ</small>			

鼎テイ 家カ 苗メウ 鞆タン 籍セキ 杖ジョウ 机キ

○第二

俵 <small>ヒラ</small>	連 <small>レン</small>	鰯 <small>イサナ</small>	瓦 <small>カ</small>	櫛 <small>シ</small>	歛 <small>セン</small>	帶 <small>オビ</small>	斧 <small>ノコギリ</small>	折 <small>オリ</small>	本 <small>ホン</small>
竿 <small>ササ</small>	魚 <small>イサ</small>	下 <small>シタ</small>	緒 <small>オ</small>	顔 <small>カネ</small>	酸 <small>クサ</small>	將 <small>サウ</small>	花 <small>ハナ</small>		
雞 <small>トリ</small>	虹 <small>ニジ</small>	富士 <small>フジ</small>	紅 <small>ベニ</small>	葉 <small>エハ</small>	鯨 <small>クジラ</small>	藤 <small>フジ</small>	雀 <small>スズメ</small>	鼠 <small>ネズミ</small>	
鈴 <small>スズ</small>	鷄 <small>トリ</small>	鯨 <small>クジラ</small>	水 <small>ミヅ</small>	石 <small>イシ</small>					

○第三

桃モモ 栗クリ 梨リ 柿カキ 檜ヒノキ 蜜ミツ 州シュウ 柘セキ 榴リウ 葡萄ブドウ

枇杷 福 菓子 大角豆 薑瓜 水仙 荷
 草 大根 人參 燕菜 蓮根 薑 芋
 牛房 葱

○第四

竈 釜 茶釜 鍍瓶 土瓶 銅樽 掛
 火鉢 膳 碗 茶碗 四 鉢 德利 盃
 壺 庖刀 箱 櫓 杓 手桶 桶 籃
 釣瓶

○第五

本 筆 墨 紙 硯 簞 蒲 椅子 鏡
 鉄 琴 太鼓 行燈 埋 灯 煙草 盆 煙管
 團扇 算盤 時計 磁 石 寒 貯 計 傘
 笠 下駄 雪駄 靴

○第六

着 物 羽織 單衣 浴衣 袴 禮 袴 衣 具
 頭 巾 手 拭 手 袋 股 引 足 袋 履

頭目耳鼻口手手の指川足

○第七

蟬 蜻蛉 蜂 蝶 蜘蛛 蛇 百足 蛙

蠅 龜 松 竹 梅 椿 山吹 櫻 牡丹

杜若 百合 柳 桔梗 萩 菊 南天

水仙

○第八

鶴 雁 鷹 鷲 烏 鷄 鳩 雀 燕

鶯 馬 牛 猫 猿 虎 熊 鹿 猪 狐
狸 鮒 鯉 鮒 鱒 鱒 鱒 鱒 鱒 鱒

連語讀

父母 叔父 叔母 私男 女 彼人
此れ 其れ 此れ 其れ 誰 何 茲に 何處に

兄弟 姉妹

本 手習 算盤 學校 今日 昨日

食物 飲物 穀物 野菜 菓物 魚肉 獸肉

乳汁 茶 養い 少一 多分

春夏秋冬 風雨 去年 今年 明年

東南西北 暖 昨秋 強 降

日月 出下 多く 吹き

絹 本綿 麻 毛織物 着物 薄 品

出来 綿 繭 送 年 毛

海氣 起 鳥身 清 毎日 法

肌着 類 度 住居 部屋 新

空気 通 養生 間 秋古 致

遊歩

針仕事 能く 上手 讀 書 下手

十兒 曾之 始 先回 讀物 今月

老 幼 夫妻 親子 賢く 愚く 書

賤く 優れ 劣く 智慧 此子 少年

精出 學文 急

○ 秤 物 塔 科 の 文 字 讀 入

天 秤 の 同 十 五 の あり 十 毛 と 二 厘 十 厘 と 二 分 十 分 と 一 匁

千 匁 一 匁 一 匁 一 匁

度 の 分 十 二 の あり 十 毛 と 二 厘 十 厘 と 二 分 十 分 と 一 匁

十 十 と 二 尺 十 尺 と 一 丈 と 一 丈 一 丈

科 の 名 十 二 の あり 十 才 と 二 勺 と 二 勺 十 勺 と 二 合 十 合

一 斗 十 斗 と 二 斗 十 斗 と 二 石 と 一 石 一 石

十 斗 と 一 石 一 石 一 石

010190528958

